

2021年度 学校評価公表シート

安田幼稚園安東園舎

1.学校評価 結果

評価の仕方…保護者の評価：保護者アンケートの評価（4から1まで）を平均にしたもの

自園の評価：各クラス・学年で成果が見られた子どもの割合を示し、以下で照らし合わせ表記した

※80%以上…4、60%～79%…3、40%～59%…2、40%未満…1

幼稚園の指導に関する評価項目		保護者の評価		園の評価		
		学年	全学年	学年	全学年	
1	(年少) 遊んだ後の片付けをするような指導が行われている	少	3.8	3.8	4	3.3
	(年中) 自分が使った物の片付けや、道具箱の整理整頓をする指導が行われている	中	3.6		3	
	(年長) 使った物や遊んだ場所を友達と一緒に片付ける指導が行われている	長	3.9		3	
2	(年少) 友達との関わりに必要な言葉を知り、思いを伝えられるような指導が行われている	少	3.8	3.8	4	3.7
	(年中) 自分の思いを言葉で相手に伝えようとする指導が行われている	中	3.9		4	
	(年長) 皆の前で自分の思いを言葉で伝える指導が行われている	長	3.8		3	
3	(年少) 先生や友達と一緒に戸外で体を動かして遊ぶ指導が行われている	少	3.9	3.9	4	4.0
	(年中) 戸外で体を動かして遊ぶ楽しさを感じる指導が行われている	中	3.9		4	
	(年長) 戸外で体を十分に動かして遊ぶ指導が行われている	長	3.9		4	

幼稚園の取り組みに関する質問事項		保護者の評価		園の評価		
		学年	全学年	学年	全学年	
4	教員は一人一人の発達を理解し、それにあつた対応をしている	少	3.9	3.9	4	3.3
		中	3.9		3	
		長	3.9		3	
5	教職員は、保護者の話を丁寧に聞いたり、相談にのったりする等の対応をしている	少	3.9	3.9	3	3.0
		中	3.9		3	
		長	3.9		3	
6	保育だよりやクラスだよりを通して今年度の重点目標やそれに関する園児の様子を伝えている	少	4.0	4.0	4	3.7
		中	3.9		4	
		長	4.0		3	
7	園の環境（園庭、探索道など）を生かす保育をしている	少	4.0	3.9	4	3.7
		中	3.9		3	
		長	3.8		4	
8	生活カレンダーの取り組みは、生活習慣を見直すきっかけに役立てることができた	少	3.5	3.5	3	3.0
		中	3.5		3	
		長	3.4		3	
保護者への対応・園での教育について					園の評価	
園での教育について	園全体で子どもたち一人一人の把握に努める	○教員間で子ども理解を深めるようミーティングをする		3		

2. 考察と今後の課題

○自分が好き

「片付け」については、片付けの必要性に気づいたり物の扱い方について考えたりできるよう、どの学年でも教師自身が手本となることを意識して取り組んだ。片付けの時間には教師と一緒に片付けたり写真やイラストを掲示したりし、子どもが自分で気づいて片付けや整理整頓ができるようにした。また、クラスの集いや行事を通して、物を大切にすることや物の扱い方や片付けの必要性に気づけるような話をし、意識がもてるようにした。その結果、進んで片付けをしたり自分の持ち物を大切にしたりする姿が見られたが、中には一部の子どものみが行き届く様子も見られた。自分のものだけでなくみんなで使う物に対する意識付けができるように、もう少しクラス全体で振り返る機会を作ったり、片付けやすい環境づくりをしたりするなどの課題が残った。また、家庭での成果が見られず保護者アンケートでは低い評価となった方がみられた。今後、園での教育が家庭に結びつくような指導をしていきたい。

○友達が好き

「自分の思いを言葉で伝える」については、集団生活を通して、関わりに必要な言葉を知ったり自分の思いを言葉で伝えたりすることができるように、学年に応じた取り組みを行った。必要な言葉を教師が手本となって伝えたり、絵本などの教材を用いて知らせたり、人前で自分の思いを伝える場を年間を通して設けたりした。思いを伝える方法や言葉を知らせると同時に気持ちを受け止めること、伝わる喜びが感じられるようにすることなど気持ちの育ちも大切にしてきた。その結果、伝え方には個人差はあるが、自分なりの言葉で伝える姿が増え、友達と会話を楽しんだり聞いてもらう人を意識しながら話したりするようになった。自分の思いを言葉で伝える姿が増えたが、話を聞く態度や友達の思いを最後まで聞くことについても意識して指導ができるとよかった。

○自然が好き

「戸外で身体を動かして遊ぶ」については、各学年で運動遊びや体を動かす集団遊びなどを、好きな遊びできっかけを作ったり一斉活動で取り入れたりし、体を動かして遊ぶことの楽しさを感じられるよう取り組んできた。前期は年少組では先生と一緒に取り組むことを意識し、年中・年長組では個人の運動遊びとともに友達とルールのある遊びが楽しめるように意識した。後期は、戸外遊びや運動遊びに苦手意識がある子どもに対して個別に誘い掛けたり、チャレンジカードやがんばりメーターなどを取り入れたり、教師も積極的にルールのある遊びに参加したりした結果、成果が見られた。しかし、中にはなかなか気持ちが向かなかったり続かなかったりする姿もあり、アンケートでも低い評価がみられた。子どもの姿を把握し、一人一人に合わせて取り組める環境を作っていく必要があった。

○幼稚園の取り組みに関することについて

昨年に引き続き、コロナ感染防止のため保護者の方が来園される機会が限定された。そのような状況の中でも、園としての取り組みを工夫しながら行っていき、育てたい事が経験できるように努めた。何を大切に育てたいか、園の取り組みをどう伝え理解していただくかを教職員一同改めて考えていった。

幼稚園の取り組みに関する質問事項では多くの保護者の方から3・4の高評価をいただいたが、5・7・8の項目では2の評価が含まれた。実際に園生活を見ていただく機会が少なかったことや、子どもたちの様子を伝えられなかったことが原因と考えられる。引き続きコロナ禍であるからこそ保護者との連携を図れるよう意識していき、安心してお子様を幼稚園に預けていただけるよう全職員で努力していきたい。

生活カレンダーの取り組みでは3・4の評価を多くいただいたが、全取り組みの中では昨年度に引き続き最低評価である。今年度は、幼稚園での取り組みを家庭でも引き続き取り組んでもらえるようにした。また、「家庭で取り組む項目」については、各学年家庭での約束を決める際に目安になる年齢別の「身に付けてほしいこと」として3学年の育ちの目安を知らせていき、子どもの成長に合わせて段階を踏んで身に付けられるように工夫をした。そのことで取り組みやすかったという意見もあったが、家庭によって取り組みの差が大きく、項目を設定する難しさを感じた。引き続き家庭と連携して、生活習慣が定着していくようにしたい。

子どもの話だけでは保護者に伝わりにくい、行事や日々の様子をHPや保育日より、クラス日よりなどで引き続き発信していきたい。そして、保護者と共に悩み、考え、子どもたちの成長を喜び合える関係を築いていきたい。

今年度も保護者の温かいご理解ご協力のもと、保育を行うことができた。来年度も今年度同様、保護者と同じ観点で子どもの成長を援助していく保育を行っていきたい。今年度のアンケートの結果を踏まえ、これからも本園の教育を真摯に進めていきたい。